

情操教育推進事業の事例集

(通称：とびだせ！おどろぐ園づくり事業)
ばこ

(令和5年度実績)



金沢市こども未来局保育幼稚園課
令和6年3月

金沢市は、伝統文化や芸術文化に加え、食文化やスポーツ文化、建築文化、木の文化など幅広い文化が息づいています。

これら様々な文化を市民の皆様幅広く身近に体験できる機会を創出するなかで、未来を担う子ども達に、園独自のプログラムによる金沢の多様な文化芸術を素材とした遊びや学び、また、楽しむ場面を作り出すことで保育の質を向上させるとともに、園の企画力向上を図るため、情操教育推進事業を今年度から開始しました。

テレビやインターネットでの「間接体験」が増える中で、実際のモノ・ヒトに触れる「直接体験」により、子どもの感性・興味・関心を高めていきたいと思えます。

活動内容は、各園のプログラムによりますが、今回紹介させていただきます事例のように、普段できない体験をみんなですてみたり、いろいろなことに驚いたり・楽しんだりしました。

全ての実施例を紹介することはできませんが、独自性あふれるプログラムが多くの園で実施されており、本事例集ではその一部を紹介させていただきます。

また、事例の提供をいただいた園の皆さまには、ご協力いただきまして、誠にありがとうございました。この場を借りて、お礼申し上げます。

令和6年3月 金沢市こども未来局保育幼稚園課

< 目次 >

1. 実施の概要..... 2

2. 創造アート×子どもコースの参考例..... 3



3. 楽しい音楽×子どもコースの参考例..... 9



1. 実施概要

市内の90施設で実施があった。(約6割の施設)

取組んだ内容として、「①創造アート×子ども」が全体の約6割、「②楽しい音楽×子ども」が約4割であった。

【実施件数・申請時期】

民間施設は、以下の4期に分けて申請を受け付けた。

年間を通して大きな偏りなく申請があった。

(申請件数の推移)

申請時期	締め切り	①創造アート	②楽しい音楽	合計
第1期	5月下旬	14	6	20
第2期	7月下旬	25	13	38
第3期	9月下旬	13	14	27
第4期	11月下旬	11	9	20
合計		63	42	105

※1 ①創造アートと②楽しい音楽の両方を申請している場合は、双方で計上しています。

※2 複数期に渡り申請している場合は、双方で計上しています。

【補助内容】

(実施コース)

以下の2コースより選択 (※補助限度内であれば、双方選択も複数申請も可能)

①創造アート×子ども コース

創作への興味を育むため、こどもによる作品を制作

②楽しい音楽×子ども コース

自ら体験(演奏・作詞)することで、音楽を能動的に楽しむ

(対象経費)

講師謝礼・バス代・材料費・会場借上料などの実費相当分

(補助上限・補助率)

1施設あたり 15万円 補助率 10/10

2. 実施例（創造アート×子ども）事例1

【参考事例1】（4. 5歳児）

「ワクドキアート」と銘打って、計5回にわたって、絵の具による偶発的な表現を楽しみました。保護者のボランティアに見守られて、作品だけでなく、毎回異なる作品が出来上がる様子を楽しみました。

（活動内容①）

- ・絵の具を塗りつけた紙を半分に折って、転写させる技法を体験。毎回異なる作品が出来上がることに驚いたり、「〇〇みたい」と感じ取った感想を友達に言葉で表現しました。



（開くと左右対称の図柄が）

【当日の保育日誌より抜粋】

周りの子が「〇〇にも見えるよ」と見ている子たちも想像しながら、作品が完成する様子を楽しみました。全員が一斉に制作するだけではなく、他の子がどのように制作しているかを見ることも過程を楽しむ観点で、よい刺激になりました。



（友達の作品づくりを観察）

（活動内容②）

- ・自分の好きな色の絵の具を3色選び、紙コップに入れ、キャンバスの上に流し、自然にできる模様を創作しました。
- ・保護者ボランティアといっしょに制作を楽しむことで、保護者も子どもの様子を見ることができるとともに、成長を感じる機会となりました。



（好きな絵の具をコップに入れる）



（絵の具をキャンバスに流す）



（キャンバスに色を広げる）

【当日の保育日誌より抜粋】

流れ出てくる絵の具が、いろいろな方向に広がっていく様子を楽しみ、出来上がった作品は、一人ひとり違った個性の表れたものとなり、子ども達自身も、自分の作品に満足を感じ取っているようだった。

※事業全体の一部を掲載しています。保育日誌は、一部表現を変えています。

2. 実施例（創造アート×子ども）事例2

【参考事例2】（4. 5歳児）

まほうのアトリエとして、計6回、毎回テーマを決めて、染色家・彫刻家・アーティスト等の多様な外部講師を園に招いて開催。遊戯室をいっぱい使って、普段できない創作を体験するとともに、個性豊かな作品を作成しました。

（活動内容①）

- ・「大きな布を染めてみよう」をテーマに、白い大きな布を全員で絞って、カラフルに染め上げました。布を広げるときれいな模様ができている、みんなでびっくりした経験を共有しました。
- ・どのような模様ができるかは、広げてみるまでわからないので、ワクワクしながら制作過程を楽しみました。



（全員でヘビをつくりました）

【当日の保育日誌より抜粋】

布の染まり方、混ざり方や変化を楽しみ、慣れてくると、食紅で絵を描く、布を引っ張り垂れ流してみる等、子どもなりに工夫する姿が見られた。



（染めた布を広げてみると）

（活動内容②）

150kgの大量の粘土で全身を使ったワークショップを実施しました。粘土の上を裸足で歩いたり、棒で伸ばしたりと粘土で遊ぶなど、素材を感覚として楽しむとともに、身近な椅子などに粘土を張りつけて、作品を制作しました。



（足で感触を確認します）



（棒でのばします。結構大変でした）



（粘土の山に思いっきりジャンプ）

【当日の保育日誌より抜粋】

一緒に話し合う子、無心で活動に取り組む子と様々で、普段から制作が好きだが、更に、制作に対して意欲が芽生えたように感じた。

※事業全体の一部を掲載しています。保育日誌は、一部表現を変えています。

2. 実施例（創造アート×子ども）事例3

【参考事例3】（5歳児）

恐竜パークにて化石や模型を見学し、興味を持ち、「やってみたい！」の声を基に、「恐竜ゴロゴロワールド」として、外部講師の助力を得ながら、段ボールの組立やペイントなど、制作に5日かけた超大作の作品を完成させました。

（制作のプロセス）

①読み聞かせで読んだ「きょうりゅうオーディション」という絵本から、クラス全体で恐竜に興味を持ち、絵を描く



（まずは、恐竜を知るところから）

②実際に、白峰恐竜パークを見学して、恐竜について学ぶとともに大きさや迫力を肌で感じました。

③初めて使うペンキや絵の具のローラーにワクワクしながら、全身絵の具まみれで制作しました。普段なかなかできない体験に大喜びでした。



（5日間かけて、じっくりと制作）

④完成した作品は、みんなで存分に遊びました。

その後、作品を近くのショッピングセンターに展示しました。作品の展示など園の活動の発信により、事業に広がりを持たせることができました。

（8日間展示し、多くの人に見てもらいました。）



【事業の目的・目標（園作成の企画書より抜粋）】

- ・複数人の他者と協力し、影響を受けあい、認め合うこと
- ・対象に好奇心を持ち積極的に関わろうとすること
- ・いろ・かたち・素材を契機に創造力を働かせ感性を育むこと
- ・グループで作りだす喜び、達成感を味わう
- ・完成した造形物をあそびを通じて鑑賞すること
- ・こどもたちが大人になっても心に残る一場面を作る

園の目的

→ 講師の目標

※事業全体の一部を掲載しています。企画書は、一部表現を変えています。

2. 実施例（創造アート×子ども）事例4

【参考事例4】（5歳児）

靴下で作ったオリジナルパペット人形「くつしたパペット」を制作し、人形で歌や会話を楽しみました。パペットを使って、いろいろな場面を創造（設定）しながら会話・対話や歌をうたうなどをして、表現力や創造力が養われました。

（ポイント）

- ・パペットに心を寄せて会話することで、非日常的なやりとりを試みたり、自分で話すことが恥ずかしくても、自分でない別の生き物になりきり、話すことができ、新しいコミュニケーションが生まれました。



（みんなの前でおはなし）



（先生とおはなし）



（友達どうしておはなし）

- ・様々な場面を子ども達自身で創造し（考えて）、キャラクターを設定します。例えば、面白いログセを自分で設定してみるなど、普段のコミュニケーションに変化が加わり、表現の面白さや幅広さを楽しみました。

【当日の保育日誌より抜粋】

パペットを手にはめると、夢中になって口を動かしたりして遊んだ。

また、パペットを使って歌をうたうと、とても楽しかったようである。

パペットを使って、思ったことを積極的に表現したり、みんなの前で発表したりした。最後に早口言葉に挑戦した。言葉に合わせて、早口言葉を言おうと一生懸命に言葉にしている姿が見られた。



※事業全体の一部を掲載しています。保育日誌は、一部表現を変えています。

2. 実施例（創造アート×子ども）事例5

【参考事例5】（5歳児）

陶芸家を招き、陶芸教室を開催。「陶芸体験」と「絵付け体験」を通して、ものづくりの楽しさや色の美しさを感じました。

（活動内容①）陶芸教室「立体顔」

- ・粘土をピザに見立てて、つまんだり、ちぎって丸めたりしながらトッピングをしました。
- ・その後ピザを丸めてロール状にし、立てた後、それぞれ好きなパーツを付けました。
- ・焼き上がったみんなの立体顔を見る。

（まるでトマトをトッピングしてるみたい！）



（パーツは何がいいかな？）



（みんなで作品を鑑賞）

卒園式の日に表示し、保護者にお披露目します。

【保育日誌より抜粋】

- ・「チーズのせた」「これトマト！」など想像することを楽しむ姿、「見て！」と保育者だけでなく、周りにいた友だちと見せ合って喜ぶ姿が見られた。

（活動内容②）陶芸教室「クリスマス皿の絵付け」



（筆を使って色付け）

- ・クリスマスツリーの白い皿に「○」や「☆」等のシールで模様をつけます。
- ・5色の釉薬から好きな2色を選んで塗る。焼き上がったクリスマス皿は、家で飾り、楽しみました。



（ツリー型のお皿が完成）

園としての思い

- ・もの作りの楽しさに気づき「おもしろい」「こうなるのか」など思っていたことや感じたことを表現できるように、探求心を育てていく
- ・色付けの楽しさや色の美しさを感じるにより、豊かな感性を育む

（園作成の計画書より抜粋）



※園の情操教育事業の一部を掲載しています。保育日誌・計画書は、一部表現を変えています。

2. 実施例（創造アート×子ども）事例6

【参考事例6】（5歳児）

地域の歴史・由来や特色について探索し、土器や窯について学ぶとともに、子ども達の自由な発想でものづくりを楽しみました。

（活動内容①）

- ・園の周辺に1,200年前の窯があり、須恵器や土師器などを作っていた史跡を、陶芸家の方とともに探索しました。「1,200年前っておじいちゃんが生まれたときかな?」「こんな静かで暗い場所に窯ってあったんだ」など今は存在しない窯跡郡に思いを馳せながら、園周辺の歴史や由来に触れました。



（陶芸家の方とともに地元を巡りました。）

（活動内容②）

- ・陶芸家の方から色々な形の器の作り方を学び、自分の思い描くものをイラスト画にすることから始めました。形・模様・色付けを考え、世界に一つだけの器を作りました。右は、ドキュメンテーションとしてクラス全体で製作した時の様子をまとめたものです。



- ・出来上がった作品を披露し、形・模様・色付けの際、考え工夫したことをみんなの前で発表しました。

また、子ども一人ひとりのポートフォリオ（個人記録）を作成し、保護者からメッセージも頂きました。



【個人のポートフォリオより一部抜粋】

「器が小さいと、たくさんの星☆が描けない」からと、満点の星空をイメージして、たくさんの星の模様がつけれるように、器を大きく作りました。

自分のイメージが再現出来るように、大きさにもこだわっていましたよ!

※園の情報教育事業の一部を掲載しています。ポートフォリオ（個人記録）等は、一部表現を変えています。

3. 実施例（楽しい音楽×子ども）事例1

【参考事例1】（4～5歳児）

高校の吹奏楽部と4施設の園児が交流。園児のなじみの曲やアニメの曲をいっしょに歌ったり、音楽に合わせてダンス、指揮者体験など、普段はできない体験をしました。

（ポイント）

- ・音楽を聴くだけでなく、表現を楽しむ内容としました。また、4施設の合同開催で、園ではなく、高校にて開催しました。大勢の人が集まるホールで、子ども達は、いつもと違う場所・雰囲気の中で音楽を存分に楽しみました。

※参加者数 園児：4施設約100名
高校生：約60名

- ・高校生の皆さんが、子ども達を会場へエスコートしてくれたり、お礼の手紙の交換など、高校生との交流も併せて、楽しみました。



（音楽に合わせて一緒にダンス）



（指揮者を体験）

【当日の保育日誌より抜粋】

高校生から様々な楽器を教わり、興味を持った子ども達は、目を輝かせていた。一緒に歌ったり、手を叩いたりと全身で楽しんでいる様子が見られた。最初から最後まで集中が途切れることなく、園に帰ってきてからも「楽しかった」と話してくれる子が多かった。

【閉会にあたり園長からの挨拶より抜粋（一部）】

今は、インターネット等で、なんでも動画を見ることができますが、生のコンサートは、演奏者と観客が作り出すものだと思います。お互いに響き合って、作り出した空間を体験したことは、深く心に残ることと思います。



※園の情操教育事業の一部を掲載しています。保育日誌等は、一部表現を変えています。

3. 実施例（楽しい音楽×子ども）事例2

【参考事例2】（5歳児）

和太鼓の演奏を間近で鑑賞した後、和太鼓体験に参加し、それぞれ感じたものを自分の太鼓で自由に表現しました。表現会では、太鼓演奏を披露し、保護者に子ども達の豊かな表現を見てもらうことができました。

（活動内容①）

- ・和太鼓の演奏、演技を間近で鑑賞し、リズムや音色だけでなく、力強さや迫力、表現力の豊かさを五感で感じました。
- ・篠笛、サクソ、和太鼓ドラムセットが、和太鼓の演奏をいっそう引き立たせ、演奏に引き込まれました。
- ・子ども達は和太鼓体験に参加し、楽しさや心地よさを覚えたようです。表現会でも「和太鼓をしたい！」との声が出るようになりました。

※当日の様子は、動画にて、園 HP 内で公開
保護者や地域の方にも取組を発信しました。



（迫力満点の演奏を鑑賞）



（お腹に響く感覚を感じる）

（活動内容②）

- ・毎日和太鼓に触れる時間を取り、その後の表現会では、みんなで心をひとつにして演奏を披露しました。
- ・保護者の皆さんも子ども達の姿に、感動している様子でした。

【当日の保育日誌より抜粋】

- ・和太鼓鑑賞では、最初の「ドン」の音が鳴ると、子ども達は「おっ！」と反応し、演奏に聴き入っていた。友だちと「すごい！」「カッコいい！」と演奏されている人の姿を見て話す様子も見られた。
- ・体験では、指導の先生の叩き方を見ながら楽しむ姿が見られた。終了後、部屋に帰ってくると「かーみなりさーん」と叩くリズムを口ずさみ、楽しい体験となった。



※園の情報教育事業の一部を掲載しています。保育日誌は、一部表現を変えています。

3. 実施例（楽しい音楽×子ども）事例3

【参考事例3】（3～5歳児）

『柿山伏』という狂言を鑑賞。独特なイントネーションや大きな動きに驚いたり面白さを感じるとともに、狂言師から〈笑う〉〈泣く〉〈柿を食べる〉しぐさを教えてもらい、子ども達も真似をして、楽しみました。

（ポイント）

- ・ 普段見ることのない狂言師のいでたちに、子ども達は興味津々で、「桃太郎みたい…」と、自分が知っている知識と結び付けて考え・発言する子もいました。
- ・ 芝居中の台詞は難しいようでしたが、独特な話し方や動作に興味を持つ子ども達の姿が見られました。



（←左写真は、柿を食べるしぐさ）

子ども達も柿を食べる場面をイメージすることができたようです。

柿の汁を吸いながら食べるなどの細かい表現も真似してみました。



泣くしぐさを実際にみんなでやってみました。

（大きく両手を広げてから、顔を覆うのが特徴で、涙をすくう動作です。）

しぐさの意味なども教えてもらいながら、顔を覆い、大きな声で泣きます。

【当日の保育日誌より抜粋】

- ・ 何となくではあるが、話（狂言の内容）も理解できていたようだった。終わってからも、柿を食べる真似が楽しいようで、何度もやってみながら「さてもさてもうまい柿じゃ」とセリフを覚えて演じていた子もいました。
- ・ 芝居中の台詞は難しいようだったが、独特な話し方や動作に興味を持つ姿が見られた。すぐにその場で話に出てきた“笑う”“泣く”“柿を食べる”芝居を教えてもらい、やってみたことを保育士や友達にも見せあっこして楽しみました。



（みんなで狂言のしぐさを楽しみました）

3. 実施例（楽しい音楽×子ども）事例4

【参考事例4】（3～5歳児）

中学校や市役所（ランチタイムコンサート）を訪問し、いつもと違う環境で音楽を楽しむとともに、自分たちで手作りの楽器を作る・演奏会を開くなど様々な角度から音楽を楽しみました。

（活動①）

内容を中学生が企画し、演奏を聞くほか、今まで見たことのない楽器に触れ、様々な音が出ることを感じるとともに、中学生との交流を楽しみました。



このほか、市役所でのランチタイムコンサートを市民の方々と一緒に聞きました。公共の場所にて、プロのピアニストの曲調から様々なことを感じる事ができた様子で、普段できない経験をしました。



（活動②）

3歳児と5歳児クラスが、一緒に楽器づくりを楽しみました。3歳児は、5歳児に作り方を聞きながら、手作りの楽器づくりをしました。音楽遊びを楽しむだけでなく、異年齢での交流も図りました。



（年下の子をアシストしながら、手作り楽器を作成）

（活動③）

園にある楽器や手作り楽器を持ち、歌をうたいながら、楽器を演奏しました。「音楽を通じて、子どもたちの心情や遊びに変化が生まれた場面ではないかと思いました。」

（※「」は、当日の記録より一部抜粋）



※園の情報教育事業の一部を掲載しています。当日の記録は、一部表現を変えています。

金沢市こども未来局保育幼稚園課

〒920-8577

金沢市広坂1丁目1番1号

TEL : 076-220-2299

E-mail hoiku@city.kanazawa.lg.jp